

<目次>

粉乳情報	相場 動意薄し	… 2-3 頁
バター情報	欧州産価格 世界との価格差縮まらず	… 3-4 頁
カゼイン情報	一時的な横ばいか	… 4 頁
チーズ情報	ドイツ国内ナチュラルスライスチーズ値上げへ	… 5 頁
ホエイ情報	上昇傾向続く	… 6 頁
乳糖情報	米国産上昇続く、欧州産も緩やかに上昇	… 6-7 頁
国内情報	全国生乳生産量は 8 ヶ月連続前年比増加	… 8-9 頁
主要生産国の現行乳価		… 9 頁
オセアニア情報	豪州・NZ オープニング価格、オーガニック乳業拡大 etc.	… 10-12 頁
米国駐在員情報	4 月の米国産乳製品の輸出量、メキシコ米国産輸入チーズに報復関税 etc.	… 13-15 頁
欧州駐在員情報	Starbucks 社、Arla Foods 社とのパートナーシップ契約を延長	… 15 頁
出典		… 16 頁

<粉乳情報>

- 動意薄な粉乳相場 -

- 欧州 -

欧州産脱脂粉乳相場は先月やや上昇した後、今月に入り落ち着きを見せている。オセアニア産と比較すると価格競争力はあるが、米国産との比較ではやや高い。6月19日に行われた政府介入在庫の放出入札では3万9,854トンの応札があり、その内2万3,533トンが落札された。そのうち最安値となったのはEUR1,195/トンであり、前月の最安値札と比較しEUR40/トンの値上がりとなった。前回、前々回と2ヶ月連続で落札最安値が上がっており、応札量も多くあるため、安定的に在庫は消化されているが未だ重く残っている。

欧州産全粉乳相場は依然としてオセアニア産より価格が高く、競争力はない。現在、欧州産全粉乳の需要は欧州域内に留まっており、輸出には向いていない。

- オセアニア -

オセアニア産脱脂粉乳相場は落ち着いており、先月まで上昇傾向であったものの今月やや弱含みにて推移した。しかしながら欧州産や米国産と比較すると依然として価格は高く競争力に欠ける。

全粉乳相場は先月から横ばい状態で、オセアニアが乾乳期という事もあり需要面、供給面共に動きは少なかった。

オセアニアの各乳業メーカーが続々と来シーズン(2018年7月～19年6月期)における乳価の発表をしており、各社ともに今シーズン(2017/18年)を上回る乳価設定のお陰で酪農家としても生乳生産意欲が高まっている模様。最新のGDTの結果は下記の通り。

GDT 結果(2018年6月19日開催、同年6月5日比較)

脱脂粉乳: USD 2,003/トン FAS(船側渡し価格)、-2.3%

全粉乳 : USD 3,189/トン FAS(船側渡し価格)、-0.5%

- 米国 -

米国のNDM(*)の価格は前月から大きな動きはなくほぼ横ばいとなっている。他地域と比べて価格競争力があるが需要は落ち着いているので供給余力はある模様。米国生乳生産量は天候が良好な事もあり順調に推移しており、2018年5月の生乳生産量は昨年同月比で0.8%増となっている。

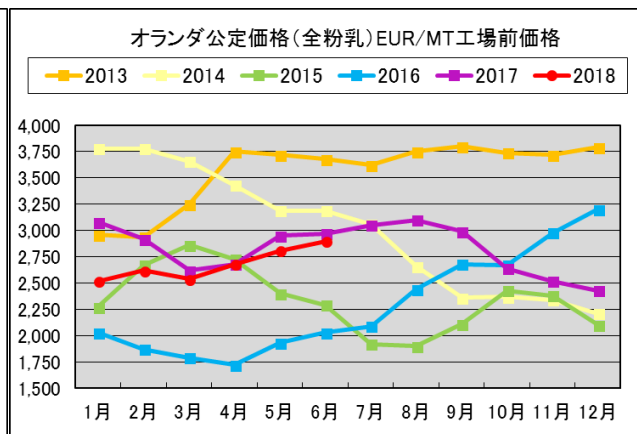
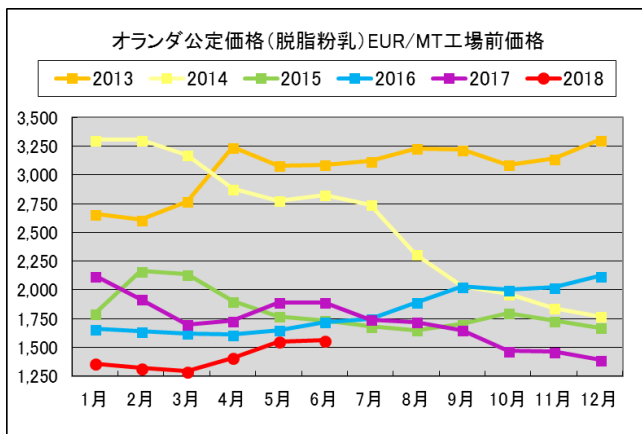
*NDM: Non Fat Dry Milk (たんぱく未調整脱脂粉乳)

- 今後の展望 -

脱脂粉乳相場は上昇へ向かうと先月から見られていたものの、多くの需要者が直近で必要となる脱脂粉乳を前広に抑えていた事もあり、予測ほど需要が伸長しなかったようで今月は一旦の落ち着きを見せている。現在オセアニアが乾乳期という事もあり、需要者の中にはオセアニアの新シーズン明けより動き出そうと様子を見ている先もある。

全粉乳についても動きが少なく今月は落ち着いているが、主要輸出国であるニュージーランド(NZ)の2018年1月～4月時期の輸出状況は昨年同時期比で10.7%増と大きく伸びている。

今後の粉乳相場に大きな影響を及ぼすであろう2018年の中国乳製品需要においては消費量換算で2017年を9.5%上回る見込みとなっており、引き続き注視する必要がある。オセアニア新シーズン開始後に中国をはじめとして需給に動きが出る可能性もあり、注意を払いながら買い遅れのないよう早めに動きたい。



(現在の粉乳取引価格)

欧州産脱脂粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE)

: USD 2,000 – 2,300/MT CFR ASIAN PORT

欧州産全粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE)

: USD 3,650 – 3,850/MT CFR ASIAN PORT

オセアニア産脱脂粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE)

: USD 2,100 – 2,400/MT CFR ASIAN PORT

オセアニア産全粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE)

: USD 3,550 – 3,750/MT CFR ASIAN PORT

米国産脱脂粉乳価格 (ADPI EXTRA GRADE)

: USD 2,000 – 2,300/MT CFR ASIAN PORT

<中村>

<バター情報>

- 欧州産バター価格 世界との価格差縮まらず -

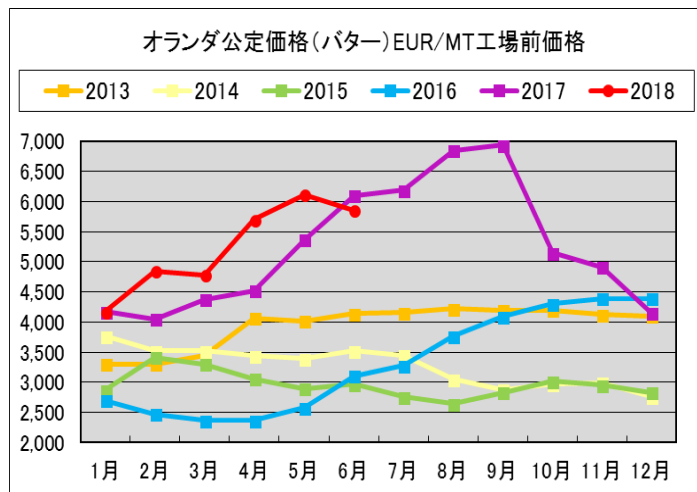
- 欧州 -

欧州の乳脂肪相場は上昇局面を脱したものの、依然高値圏に留まっている。

欧州内外からの需要は引き続き旺盛である模様。1～4月のバター生産量累計は 74.4 万トンと、前年同時期比 1.4%増加しているものの、強まる需要をカバーしきれていないように見受けられる。

欧州の脱脂粉乳在庫は減ってきているものの、未だに 27 万トン程度もの数量が積み上がっているため、バター増産に拍車がかかり難い状態が続いている。

旺盛なバター需要と過剰な脱脂粉乳在庫が主要因となり、欧州乳脂肪相場は容易には下がらないと予想する。



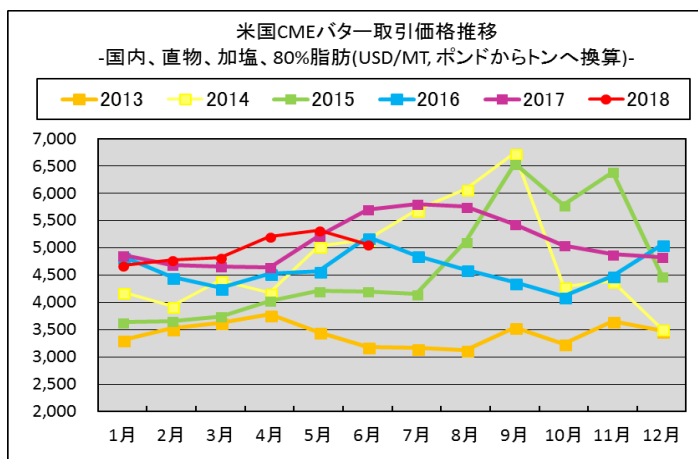
- オセアニア -

6月のGDTオークションは、1回目(2018年6月5日)の平均落札価格がバターではUSD5,581/MT FAS(船側渡し)と前回(2018年5月15日)比-3.6%、AMFではUSD6,222/MT FASと前回比-2.1%となった。2回目(2018年6月19日)の平均落札価格はバターがUSD5,611/MT FASと前回比+0.5%、AMFはUSD6,060/MT FASと前回比-2.6%となった。

豪州バターの生産量は2017年7月～2018年3月までの累計が4.6万トンで、前年同時期比-14%と大きく下回っている。国内の不足分を補うために輸入量が増加した。2018年1～4月のバター+バターオイル輸入量は前年同時期比+12%の1.5万トンで世界第二位の輸入量となっている。

- 米国 -

2018年5月末時点のバター在庫は前年同月比+8%の15.4万トンで、5月末時点の在庫量としては1993年以来最大となった。2018年1~4月のバター生産量累計は32.2万トンで前年同時期比4.6増加、生産が好調であったことにより歴史的高水準の在庫量となった。



2018年6月のバター取引価格

(換算レート EUR/USD1.16)

EU産バター価格	USD7,800~USD8,300/MT CFR ASIAN PORTS
NZ産バター価格	USD5,900~USD6,400/MT CFR ASIAN PORTS
豪州産バター価格	USD6,350~USD6,800/MT CFR ASIAN PORTS
米国産バター(無塩 82%脂肪)価格	USD6,400~USD6,800/MT CFR ASIAN PORTS

<小瀬村>

<カゼイン情報>

- 一時的な横ばいか -

カゼイン相場は横ばいとなっている。

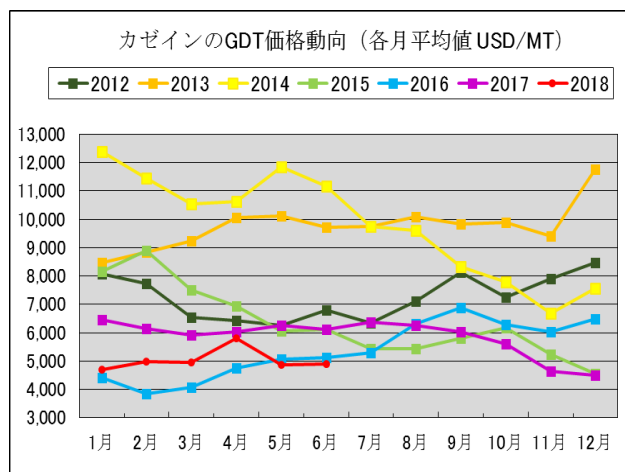
供給面については、EUの脱脂粉乳介入在庫が順調に消化されており、脱脂粉乳の生産が増加に転じたことによりカゼイン生産量は頭打ちとなっている。更に、主要生産国であるニュージーランド(NZ)は乾乳期に入っており、全体的にタイトな状況。

需要面については比較的落ち着きをみせているものの、供給タイトを受け、米国の一部需要者は第3四半期に必要な分を手当てしようと動いており、引き合いは徐々に増えている。

6月直近のGDTにおいては前回比-3%という結果となり現在の相場は横ばいで安定しているように見えるが、これは一時的なものと考えられ、欧州及びNZにおける生産量は限られており、今後相場は上昇することが予測される。また、脱脂粉乳相場が今以上に回復してくると、脱脂粉乳生産が優先されてカゼイン生産は減少、カゼイン価格の上昇要因となってくる。引き続きEUの介入在庫と脱脂粉乳相場の動きは注視していく必要がある。

- レンネットカゼインのGDT 過去3カ月の落札価格 -

入札日	カゼイン(単位:MT)
2018年4月3日	USD5,668
2018年4月17日	USD5,792
2018年5月1日	USD5,177
2018年5月15日	USD4,876
2018年6月5日	USD5,015
2018年6月19日	USD4,898



<渡辺>

<チーズ情報>

- ドイツ、ナチュラルスライスチーズ値上げへ -

ドイツ国内のチーズ需要は小売用及び業務用いずれも堅調であり、加えて6月に同国最大手の乳業メーカーであるDMK社が乳価を引き上げた事などを受けて、ナチュラルスライスチーズの製品価格は上昇局面にある。ナチュラルスライスチーズ製造各社は、7月以降の契約分に関して製品価格の値上げをユーザーに案内しており、一部ユーザーからは既に値上げが受け入れられている。同国内のチーズの在庫量は依然として低水準にあるが、その殆どが既契約となっており、一部の製造者においては製造及び出荷に遅れが出ている模様。

- NZ産チーズの輸出量 -

2018年第1四半期におけるニュージーランド(NZ)産チーズの輸出量は昨年比9.9%減の7万9,650トンで、過去5年間で最低の結果となった。4月の輸出量は前年と同水準の3万350トンであったが、1月から4月までの累計輸出量は前年同時期比で7.3%減少している。2017年の輸出量トップ3は、日本(6万3,552トン)、オーストラリア(6万1,618トン)、中国(5万6,409トン)であるが、2018年1月から4月までの実績は日本とオーストラリアが微増であるのに対して、中国向けは前年同時期比で18.3%も減少している。

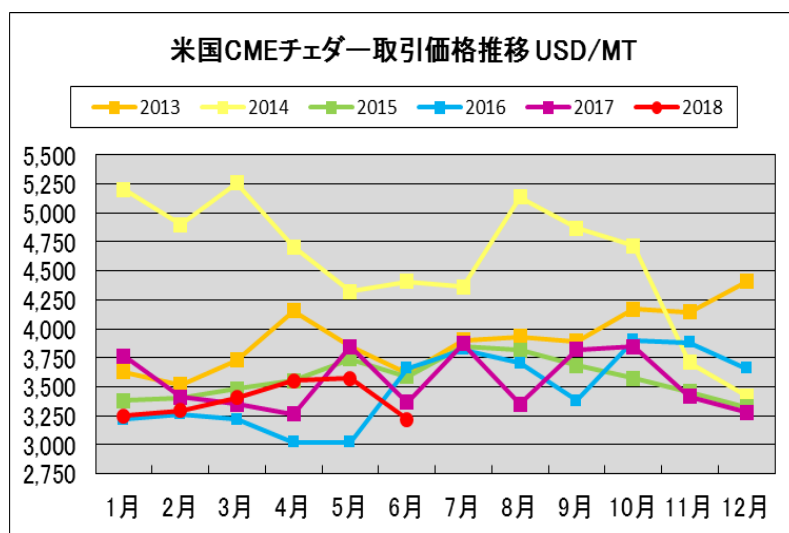
- 米国産チーズの在庫量 -

5月末時点での米国内チーズ在庫量は、前年同月比5.3%増で過去最高となる62万9,244トンであった。その内、チェダーやモントレージャック等のアメリカンタイプチーズの在庫量は36万5,333トンと、全体の半数を超えている。

4月から5月にかけては1999年以降最大の増加量となる1万8,432トンの在庫が積み上げられたが、在庫量が急激に増加するとCMEの現物価格が急落する事がある。例年通りであれば、基本的には夏場や年末の需要期に向けてCME先物相場は上昇傾向となるが、メキシコによる報復関税の影響を受けて、今後は瞬間的に相場が落ち込む可能性が考えられる。

- 米国CME相場 -

2018年6月のCMEスポット相場は大きく下落した。5月末はUSD3,550/MT(現地工場出し価格)であったが、6月27日時点ではUSD3,219/MTとなった。先物相場においても全体的に軟化傾向にあるが、特に期近である8月積みが緩み始めている。詳細は米国情報の通りであるが、7月5日にメキシコの対米報復関税が引き上げられ、種類別に20-25%の関税率となる。一方で外食産業や小売業界の売上が鈍化しており、輸出向けの相場がさらに下落する見方も出てきている。



<近藤>

<ホエイ情報>

- 上昇傾向続く -

米国産ホエイパウダー相場は引き続き上昇している。メキシコ、中国、東南アジアからの需要に加え、国内からの引合いも強くなっており、相場を押し上げる要因となっている。在庫に逼迫感があり、製造者によってはスポットオファーが提示できないという声も聞こえてきている。

米国産ホエイパウダーの2018年1月～4月輸出量は、前年同期比23%増の約7万9,000トン。国別で見ると、中国向けが約3万トン(前年同期比4%増)、続いてフィリピン向けが約6,000トン(同比40%増)、メキシコ向けが約5,500トン(同比2%増)となっている。

欧州産ホエイパウダー相場は若干の上昇傾向となっているものの、高値で推移していた昨年同時期に比べると落ち着いていると言えよう。しかしながら、製造者の一部では現状のホエイの低い価格帯に不満の声も上がっていることに加え、米国産相場も上昇しているため、今後もEU産相場は上昇傾向で推移すると予想する。

米国産 WPC-34 の相場も上昇傾向で推移している。ホエイパウダーへの需要が高まってきており、特に育児粉乳用途の需要が伸びている。NASS(米国農務省全農業統計局)によると2018年4月のWPC(蛋白含有量25～49.9%)の生産量は約6,600トン、前月対比2.3%の減、前年対比では11.4%減となっている。

2018年4月末時点でのWPC(たんぱく含有量25.0～49.9%)の在庫量は約1万6,900トン、前月対比2.9%減、前年対比7.7%減となっている。

<増田>

<乳糖情報>

- 米国産上昇続く、欧州産も緩やかに上昇 -

- 欧州 -

欧州産乳糖相場は緩やかに上昇している。欧州の1月から4月までの累計生乳生産量は、昨年対比2.1%増となった。チーズ需要は変わらず欧州域内外で好調、1月から4月までの累計生産量は昨年対比2.4%増となった。

よってホエイと乳糖の供給も安定している。需要面では、脱脂粉乳の1月から4月までの累計生産量が昨年対比6%増となっており、たんぱく調整用途での乳糖需要が好調である。在庫状況には若干タイトな印象が見受けられ、乳糖相場は緩やかに上昇した。

脱脂粉乳の相場が僅かに上昇していることから、今後はチーズとホエイの組み合わせよりも、バターと脱脂粉乳を組み合わせた生産が優先され、乳糖の需要増及び生産量減に繋がる可能性がある。また、米国産乳糖の相場上昇もあり、今後の欧州産乳糖相場も、緩やかに上昇していくと予想する。

国別乳糖輸入量:1-5月の累計(単位/トン)			
	2017	2018	(%)
オランダ	3,344	2,163	-35
フランス	686	353	-49
ドイツ	6,577	4,884	-26
カナダ	1,255	1,672	33
米国	19,701	18,135	-8
豪州	159	0	-
ニュージーランド	1,286	1,218	-5
その他	802	621	-23
合計	33,651	29,082	-14

- 米国 -

米国産乳糖相場は、上昇を続けている。供給面を見ると、生乳生産量は、僅かに増加した。一方で春先には、一部地域で生産のペースを抑える動きがあり、その生産量は減少した。よってホエイ・乳糖の生産量も減少する結果となった。5月の米国主要23都市における生乳生産量は昨年対比0.9%増、4月のチーズ生産量は昨年対比0.9%増(前月対比3.7%減)、乳糖生産量は昨年対比2.5%減(前月対比5.8%減)となった。また需要面では、引き続き中国向けなどの育児用粉乳用途での乳糖需要が好調なことに加え、米国内における脱脂粉乳のたんぱく調整用途での乳糖需要が強まった。非常にタイトな在庫状況が続いており、中には第2四半期の船積みが遅らせざるをえないメーカーも出てきている。

今後、供給面では、在庫過多になりつつあるWPC80などの高たんぱくホエイ製品と乳糖の組み合わせよりも、ホエイパウダーの生産が優先されることが見込まれる。そのため、乳糖の生産量は伸び悩むものと思われる。需要面では、秋冬のイベントに合わせた製菓向け需要の増加など、引き続き国内外問わず乳糖需要が強まっていくことが考えられる。乳糖の生産は、高まりを見せる需要のペースについていくことが難しく、また在庫状況も非常にタイトなため、米国産乳糖相場については、引き続き堅調と予測される。

- 米国からの乳糖輸出量(2018年4月) -

1. 中国	35,637	トン
2. ニュージーランド	15,955	トン
3. メキシコ	15,675	トン
4. 日本	14,121	トン
5. インド	9,326	トン
6. ベトナム	6,668	トン
7. インドネシア	5,957	トン
輸出量総計	140,275	トン

- 米国の乳糖生産量と在庫量(2018年4月) -

乳糖生産量	42,592トン	前年比 2.5%減
月末在庫	50,303トン	前年比 4.6%減

<柴崎>

<国内情報>

- 全国生乳生産量は8ヶ月連続前年比増加 -

- 生乳生産 -

農林水産省が発表した2018年5月の全国生乳生産量は64万7,908トン。前年同月比0.5%の増となり8ヶ月連続で前年を上回った。地域別では北海道が34万5,857トンで同1.9%の増である一方、都府県は30万2,051トンで同1.3%の減少となった

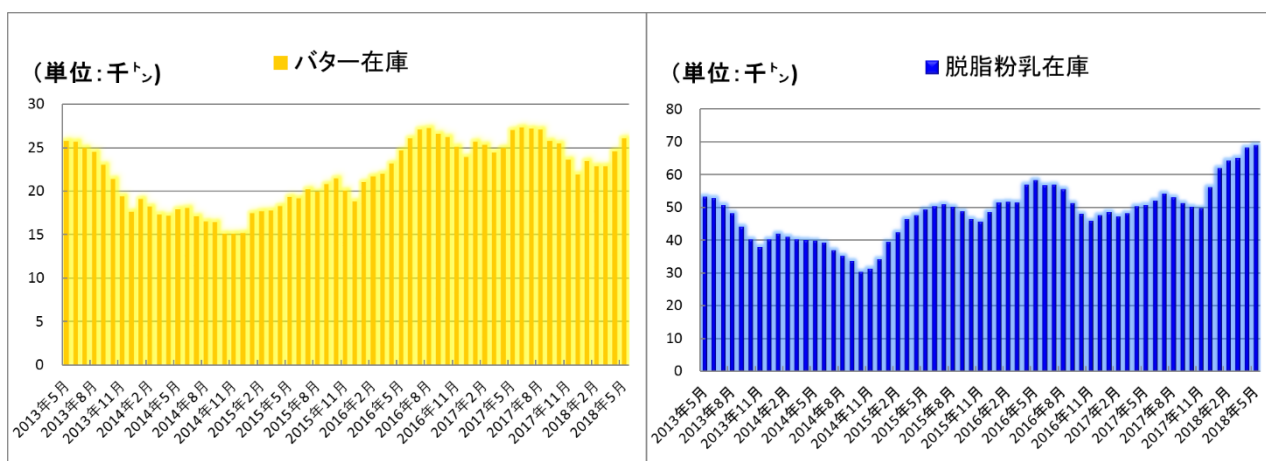
5月に放映されたテレビ番組の影響から、引き続き飲用需要は堅調であり、生乳生産が振るわない都府県からの北海道産生乳への引合いが依然強い。本年も予想では猛暑となっており、都府県の生乳生産は更に落ち込む恐れがあるとの見方もある。

- バター -

農林水産省が発表した2018年5月のバター生産量は、5,804トンで前年同月比6.2%減、在庫量は2万6,091トンで同3.5%減となっている。農畜産業振興機構(ALIC)は、6月14日に1,000トンのSBS入札を実施。応札数量は1,254.8トンで競争倍率1.25倍、落札数量は1,000トン全量であった。売渡結果の落札平均価格は960,868円/トン。なお本年2月からの入札以降初めて落札率が100%となっている。海外のバター相場は全体的に上昇傾向にあるも、国内では年末の最需要期に向けて物量確保の動きが活発化してきていると言えよう。

- 脱脂粉乳 -

農林水産省が発表した2018年5月の脱脂粉乳生産量は1万1,046トン。前年同月比4.4%減となるが、在庫量は6万8,987トンで同35.9%と前月に続き大幅増となっている。ALICは、6月21日に4,000トンのSBS入札を実施。応札数量は3,533.4トンで競争倍率0.88倍、落札数量は3,229.4トンで落札率は81%となった。売渡結果の落札平均価格は、532,920円/トン。昨年2017年の入札では競争倍率が3倍を超える入札もあったが、今年に入り2月、4月、6月と隔月で行なわれている入札の落札率は、いずれも100%を下回っている状況。5月末時点での在庫6万8,987トンは月間需要の6カ月弱となり、潤沢な在庫量と言えることから、今後も入札が過熱することはなさそう。しかしながら、この夏が猛暑となり生乳生産減、飲用需要増が加速した場合、脱脂粉乳の需給が予想より逼迫する可能性もあることから、引き続き需給状況には注視が必要である。



生乳生産量(2018(平成30)年5月)(単位:千トン)

	生乳生産量	牛乳等向け	乳製品向け		
			内業務用	その他	その他
平成30年度	648	352	28	292	4.1
前年同月比	100.5%	101.4%	108.6%	99.3%	99.1%

2018(平成30)年度、バターの需給予想(単位:トン)

	生産量	前年比	消費量	前年比	在庫量	前年比	月数
第1四半期	16,690	99.6%	18,868	120.8%	26,500	97.0%	4.1
第2四半期	12,900	102.4%	14,300	93.1%	28,300	104.6%	4.4
第3四半期	12,400	92.2%	20,600	75.8%	23,300	106.2%	3.6
第4四半期	17,200	99.6%	17,500	92.4%	26,200	102.8%	4.1
合計	59,190	98.5%	71,268	92.4%	26,200	102.8%	4.1

在庫量はカレントアクセスによる輸入バター(民間)を含む

2018(平成30)年度、脱脂粉乳の需給予想(単位:トン)

	生産量	前年比	消費量	前年比	在庫量	前年比	月数
第1四半期	32,312	99.0%	23,428	63.9%	66,900	124.6%	5.4
第2四半期	25,800	102.1%	41,900	116.8%	58,700	110.6%	4.7
第3四半期	27,900	92.2%	36,900	120.0%	57,600	102.7%	4.6
第4四半期	33,300	99.7%	35,400	78.0%	63,400	126.5%	5.1
合計	119,312	98.1%	137,628	92.6%	63,400	126.5%	5.1

在庫量はカレントアクセスによる輸入脱脂粉乳(民間)を含む

<白井>

<主要生産国の現行乳価>

	円換算乳価 ^{※1}	適用期間	直近の乳価
日本	¥96.13/ℓ	2018年4月	¥93.24/kg ^{※2}
ドイツ	¥43.54/ℓ	2018年4月	EUR32.99/100kg
オランダ	¥45.53/ℓ	2018年4月	EUR34.50/100kg
アイルランド	¥43.96/ℓ	2018年3月	EUR33.31/100kg
米国	¥39.86/ℓ	2018年4月	USD15.80/100ポンド(100ポンド=45.3592kg)
豪州	¥35.58/ℓ	2017/18年度	AUD5.68/kg MS(乳固形kgあたり)
NZ	¥37.99/ℓ	2017/18年度	NZD6.55/kg MS(乳固形kgあたり)

※1 生乳1リットルあたりに換算した概算価格。生乳比重は1.031で計算。

※2 総合乳価。用途別に異なる乳価の総加重平均の価格で、実際に酪農家に支払われた乳代。消費税抜き。

※3 為替レート EUR=¥128.00 USD=¥111.00 AUD=¥81.00 NZD=¥75.00

<出典> 日本:農畜産業振興機構 EU:European Commission 米国:CLAL 豪州:Murray Goulburn HP NZ:Fonterra HP

<オセアニア情報>

- 豪州オープニング乳価 -

新シーズン7月以降のオープニング乳価が次々に他社より発表される中、豪州最大の乳業会社 Saputo Dairy Australia 社(以下 SDA 社)と二番手の Fonterra 豪州社は新シーズン直前になってやっと来年度のオープニング乳価を発表した。SDA 社は6月19日にオープニング乳価 AUD5.75/kg 乳固形を発表、Fonterra 豪州社は6月20日に AUD5.85/kg 乳固形を発表した。SDA 社の乳価がもう少し上がると期待を寄せていた一部の酪農家から不満の声が聞かれるものの、概ね歓迎されている模様。

これを受けて、3月時点でいち早く来シーズン乳価を発表していた Bega 社は、6月25日付けで新シーズンのオープニング乳価を AUD5.85/kg 乳固形にする事を発表した。Fonterra 豪州社と並び豪州主要乳業会社の中では最も高いレベルの乳価設定となった。Bega 社の発表の中には、当乳価の他に長期供給契約を結んだ酪農家に対しては前払いオプションを用意している事も発表した。前払い額は、2年契約なら AUD0.25/kg 乳固形、3年契約であれば AUD0.50/kg 乳固形。シーズン当初は、冬場の飼料代などを含めて設備更新など何かと現金が必要になる為、酪農家にとっては魅力的な前払いオプションとなる。また今シーズン乳を供給してくれた契約酪農家に対しては AUD0.07/kg 乳固形を「ロイヤルティ ペイ」として追加にて支払う事も発表している。支払いは7月15日に行われる予定。更に今シーズンの最終乳価については AUD5.70/kg 乳固形とする事も発表している。これは、今シーズンの最終乳価としては主要乳業会社中、現時点での最高額となっており、豪州乳業界での Bega 社の存在感が大きくなっている。

乳価一覧は下記の通り。旧 MGC 社が2年前に大幅に乳価を下げ大きな打撃を受けた豪州酪農家は、その翌年には AUD4.60-5.00/kg 乳固形レベルの乳価で採算の合わない酪農経営を強いられ非常に苦しんだ。豪州酪農経営の採算分岐点が AUD5.30/kg 乳固形と言われており、新シーズンの乳価は豪州酪農家にとっては十分採算の取れる満足のいく乳価だと思われる。

今シーズン最終乳価予想

元 MGC 社(SDA 社)	AUD5.68/kg 乳固形
WCB 社(SDA 社)	AUD5.68/kg 乳固形
Fonterra 社	AUD5.68/kg 乳固形
Bega/Tatura 社	AUD5.70/kg 乳固形
Burra 社	AUD5.70/kg 乳固形

新シーズン・オープニング乳価

元 MGC 社(SDA 社)	AUD5.75/kg 乳固形
WCB 社(SDA 社)	AUD5.75/kg 乳固形
Fonterra 社	AUD5.85/kg 乳固形
Bega/Tatura 社	AUD5.85/kg 乳固形
Burra 社	AUD5.60~5.90/kg 乳固形

- 豪州、暖冬・雨不足 -

豪州の5月の雨量は、全国各地で記録的に少なかった。豪州気象局は、この冬は今後も平年より暖かく降雨量が少ない日が続くと予想している。豪州の南東部及びクイーンズランド(QLD)州南部や西豪州の降雨量は平年を下回る一方でタスマニア(TAS)州は平年を上回る雨量となる見込み。雨不足による牧草の生育不良が起きる為、酪農業への影響は少ない。飼料穀物の需要が急増し、穀物価格は引き続き上昇傾向にある。灌漑用水の需要も増加している。飼料用的小麦・大麦のスポット価格は昨年同時期比でAUD100/MT 上昇傾向にある。6月のDA(豪州乳製品協会)の今後の見通しによると、豪州国内の生乳獲得競争が激化した結果、上述の通り酪農家への乳価は改善したが、飼料、灌漑用水の酪農操業コストの上昇と、酪農家の心理的な自信低下により2018~19新乳シーズンの生乳生産量は前年比1%増程度にとどまる見込みを発表している。

- NZ オープニング乳価 -

ニュージーランド(NZ)最大乳業会社の Fonterra 社は 2018/19 新シーズンのオープニング予想乳価を NZD7.00/kg 乳固形(≒AUD6.49/kg 乳固形 為替:0.927 にて計算)と発表した。もしこれが現実となれば 2014~15 シーズン以来の4年ぶりの大台 NZD7.00/kg 乳固形を超える事になる。今シーズンの最終乳価については NZD6.75/kg 乳固形と予想している。今シーズン乳価は9月頃には確定すると思われる。2017/18年度(2017年6月~18年5月)のNZ生乳生産量は前年比0.1%程度の増加。今シーズンは春季の降雨量が例年よりも多く、夏季には一部で干ばつが進んだものの、年度末には再び天候が回復、前年を下回ると見られていた生乳生産量は前年比同等レベルに戻った。NZ大手乳業会社の Synlait 社は 2018/19 シーズンのオープニング乳価を Fonterra 社と同額の NZD7.00/kg 乳固形、Westland 社は 6.75~7.20/kg 乳固形とそれぞれ発表している。年間を通して乳脂肪製品の国際相場が堅調に推移しており、またハイグレードの脱脂粉乳の国際相場も堅調であるという背景から、各社とも強気の乳価予想となっている。

- オーガニック乳業拡大 -

世界のオーガニック乳製品市場は今後4年間で約50%の成長が見込まれている。NZの乳製品輸出は伸び悩んでいる中、オーガニック乳製品の売上は中国市場を中心に大幅に伸びている。NZでは推定4万2,000頭のオーガニック牛が飼育されており、年間のオーガニック乳量はNZ全体の生乳生産量の約0.9%程度となっている。国際的にみてもこの比率は非常に小さく、今後の大幅拡大の可能性を秘めている。豪州でもオーガニック牛乳の需要は拡大しているものの、世界的に見れば後進国で、オーガニック乳は前生乳生産量の0.2%程度に過ぎない。ドイツ、米国、UKなどのオーガニック乳の比率は3~8%まで上昇しており、デンマークについては25%以上の生乳がオーガニック乳である模様。オーガニック乳は、通常の乳価よりも30~40%程度の高値で取引される為、豪州でもオーガニック酪農に切り替える酪農家が増えている。オーガニック酪農と認定されるには一般的に3年程度の年月が必要となる。オーガニック乳牛になるには6か月程度で承認が取れるものの、牧草土壌から農薬などが抜けるには一定以上の期間が必要であり、オーガニック酪農をする為には初期投資の負担がかかるという難しさがある一方で、国際的な需要は増加しており、今後伸びてくる分野と思われる。豪州では Fonterra 豪州社と同国育児粉乳などを製造する Bellamy's 社がオーガニック乳の供給に関して長期契約を結んだ事が報じられている。タスマニアで集乳されたオーガニック乳は Fonterra 豪州社 Spreyton 工場にて粉乳に加工された後、豪州ヴィクトリア(VIC)州の工場にて Bellamy's 社製品として最終製品に加工される。日本では限られた需要のオーガニック乳製品であるが、今後注目される日が来る可能性を期待したい。

- 豪州 VIC 州の降雨量 2018 年 6 月 26 日現在 (mm) -

	6 月降雨量	昨年同月降雨量	平年	平年比
Tatura (北部)	39.6	1.2	44.3	-10.6%
Warrnambool (西部)	92.0	28.6	79.1	+16.3%
Bairnsdale (東部)	64.6	29.4	66.0	-2.1%
Albury (北東部)	57.6	7.6	63.9	-9.9%
Melbourne	42.6	54.4	49.5	-13.9%

- NZ 主要都市の降雨量、2018 年 5 月 (mm) -

	5 月降雨量	昨年同月降雨量	平年	平年比
South Auckland (北島)	121.6	116.6	87.1	+39.6%
Taranaki (北島)	18.2	114.0	132.0	+50.2%
North Canterbury (南島)	58.4	44.6	52.0	+12.3%
Southland (南島)	121.3	71.6	110.0	+10.3%

- 豪州品目別生産状況 -

単位: トン

	2018 年 3 月 (前年同月比)	2017 年 7 月～累計 (前年同時期比)
バター	3,701 (-2.8%)	46,372 (-13.2%)
バターオイル	770 (+10.7%)	7,988 (-18.2%)
CHEDDAR	14,920 (-7.5%)	155,894 (+7.4%)
その他チーズ	12,445 (+19.6%)	119,473 (+8.6%)
脱脂粉乳	6,310 (-28.2%)	147,932 (-21.1%)
全粉乳	5,691 (+49.3%)	68,421 (+37.7%)
ホエイ、WPC	3,323 (+28.2%)	37,803 (-2.1%)

<メルボルン駐在 Lacto Oceania Pty Ltd 松本>

<米国駐在員情報>

- 4月の米国産乳製品の輸出量 -

4月の米国乳製品輸出は3月に引き続き好調を維持した。主要製品の輸出量は軒並み前年同月比増加となった。

乳脂肪の輸出量は前年比162%増の5,012トンであった。4月単月の輸出量としては2014年以降最高となった。主要輸出相手先はメキシコ、カナダとなっており、合計輸出量の内46%がメキシコ向け、25%がカナダ向けであった。メキシコ向けの輸出量は前年同月と比べて4倍となった。

チーズ輸出量は前年同月比22%増となる3万2,865トンであった。フレッシュチーズの輸出量は前年比19%増の1万589トンとなった。ここ数年フレッシュチーズの輸出量は落ち込んでいたが、今年に入って輸出量は回復しており、数年前と同程度の水準となった。チェダーチーズの輸出量は前年比75%増となる4,853トンであった。

主要輸出相手先はメキシコとなっており、チーズ輸出量の内25%が同国向けであった。メキシコ向けの数量は前年比11%増加しており、その他に韓国、日本向けへの輸出量も増加した。

脱脂粉乳(NDM/SMP)の輸出量は前年比36%増となる7万5,639トンであった。単月の輸出量としては、過去最高であった2016年10月次ぐ輸出量となり、4月単月では過去最高となった。4月は脱脂粉乳(NDM/SMP)生産量の内77.4%が輸出された。脱脂粉乳(NDM/SMP)においてもメキシコが主要輸出相手先となっており、合計輸出量の内40.8%が同国向けであった。

WPC(WPC80以下)の輸出量は大幅に増加し、前年比87%増となる1万9,773トンであった。中国への輸出量が大幅に増加し、前年比182%増となる9,565トンであった。乳糖の輸出量も前年比31%増となる2万9,947トンであった。乳糖も特に中国向けが増加し、こちらも前年比182%増となった。

- メキシコ 米国産輸入チーズに報復関税 -

メキシコは、米国がメキシコよりの鉄鋼・アルミニウムに追加関税を課すとの発表を受けて、米国に対し報復関税を実施するとした。報復関税の対象製品にはチーズも含まれており、税率は2段階で引き上げられる。

詳細は下記の通り。

HSコード	税率	
	6月5日以降	7月5日以降
0406.10.01 (fresh cheese)	15%	25%
0406.20.01 (grated, shredded or powdered)	10%	20%
0406.90.04 (hard & semi-hard)	10%	20%
0406.90.99 (other)	15%	25%

メキシコは米国産チーズ最大の輸出相手先となっている。2017年において、米国は9万6,413トンのチーズをメキシコ向けに輸出しており、チーズ合計輸出量のうち約28%はメキシコ向けとなっている。2017年におけるメキシコ向けの輸出量を金額に換算すると391百万ドル(約430億円/1USD=¥110.00)に相当し、7月5日以降の影響に注目が集まっている。

- カリフォルニア州 連邦ミルク・マーケティング・オーダー設立 -

6月7日、米国農務省(USDA)はカリフォルニア州に連邦ミルク・マーケティング・オーダー(Federal Milk Marketing Order/以下FMMO)の設立を承認すると連邦官報に公告した。カリフォルニア州におけるFMMOは10月17日より施行となる。カリフォルニア州は1969年より州独自の乳価制度を運用していたが、酪農家よりはFMMOとの乳価算定方法の違いにより不利益を被っているとして、FMMO設立是非の投票が行われていた。Land O' Lakes、California Dairies、DFA(カリフォルニア州の生乳の約70%がこれらの3社によって供給されている)も導入に肯定的な態度を示していた。

今回の導入を受けて生乳の用途別クラス分け、生乳価格の算定方法などがFMMOと同じ仕組みとなるが、カリフォルニア州独自の割当制度などの一部はFMMOとは別管理となる。

カリフォルニア州は全米生乳生産量の18%以上を生産する州となっており、同州がFMMOを導入することにより全米生乳生産量の80%以上がFMMOの枠組みのもとで取引されることになる。

- 5月の主要23州生乳生産量 -

米国農務省(USDA)の発表による5月の主要23州の生乳生産量は812万6,600トンで前年同月比0.9%増となった。先月発表の4月の生乳生産量は前年同月比0.5%増の785万4,200トンに修正された。

主要23州における5月の一頭当たりの平均搾乳量は約932キロで前年同月を約7キロ上回った。この搾乳量は統計を取り始めた2003年以来5月単月の数値としては過去最高となった。

主要23州における5月の平均乳牛頭数は874万頭と発表され、前年同月比1万頭増、前月比2,000頭増となった。

- 2018年5月主要州別生乳生産量(前年同月比) -

カリフォルニア州	1,603,074トン	+0.5%	(+7,264トン)
ウィスコンシン州	1,203,100トン	+1.1%	(+12,712トン)
ニューヨーク州	593,378トン	-1.2%	(-7,264トン)
アイダホ州	583,844トン	+0.6%	(+3,632トン)
テキサス州	514,836トン	+6.6%	(+31,780トン)
ミシガン州	447,644トン	-0.3%	(-1,362トン)
ペンシルバニア州	433,116トン	-2.1%	(-9,080トン)
ミネソタ州	389,532トン	±0%	(-)
ニューメキシコ州	330,058トン	±0%	(-)
ワシントン州	263,774トン	+2.3%	(+5,902トン)

- 2018年4月米国産主要乳製品生産量 -

バター	79,600トン	前年同月比 +8.3%	前月比 -3.7%
チーズ	484,728トン	前年同月比 +0.9%	前月比 -3.7%
（うちアメリカンタイプチーズ）	200,145トン	前年同月比 +1.4%	前月比 -0.6%
（うちイタリアンタイプチーズ）	205,008トン	前年同月比 +0.8%	前月比 -6.2%
NFDM(食用)	75,497トン	前年同月比 -3.8%	前月比 -6.9%
SMP	22,389トン	前年同月比 -1.8%	前月比 +17.3%
ホエイパウダー	38,703トン	前年同月比 +0.7%	前月比 -6.0%
WPC	18,466トン	前年同月比 -3.3%	前月比 -9.5%
乳糖(食用、餌用)	42,618トン	前年同月比 -2.5%	前月比 -5.8%

- 2018 年 4 月末米国産主要乳製品在庫量 -

バター	139,532 トン	前年同月比 +5.15%	前月比 +12.19%
チーズ	611,433 トン	前年同月比 +3.33%	前月比 +1.67%
（うちアメリカンタイプチーズ）	354,792 トン	前年同月比 -2.88%	前月比 +1.94%
NFDM（食用）	124,380 トン	前年同月比 +2.5%	前月比 -8.0%
ホエイパウダー	31,177 トン	前年同月比 -19.7%	前月比 -8.5%
WPC	34,124 トン	前年同月比 +15.4%	前月比 -4.8%
乳糖（食用、飼用）	50,343 トン	前年同月比 -4.6%	前月比 -4.5%

- 2018 年 5 月末バター、チーズ在庫量 -

バター	153,820 トン	前年同月比 +8.04%	前月比 +10.24%
チーズ	629,171 トン	前年同月比 +5.88%	前月比 +3.01%
（うちアメリカンタイプチーズ）	365,352 トン	前年同月比 -1.41%	前月比 +3.14%

＜ロサンゼルス駐在 Lacto USA Inc. 佐藤、土屋＞

＜欧州駐在員情報＞

- Starbucks 社、Arla Foods 社とのパートナーシップ契約を延長 -

Starbucks 社とデンマークに本拠を置く酪農協である Arla Foods 社は新しい戦略的ライセンス契約を締結した。7 年間にわたるパートナー契約満了を迎えるにあたり、継続して 21 年間の長期戦略契約を締結した。これにより Arla Foods 社は EMEA 地域(ヨーロッパ、中東、アフリカ)における Starbucks 社の小売用プレミアム乳飲料(Ready to Drink = RTD, 購入後そのまま飲める缶やペットボトル入りの飲料)の製造・流通・マーケティングを引き続き行うこととなる。Starbucks 社 EMEA の副社長は、「Arla Foods 社との 7 年間の関係強化により EMEA における RTD 商売は年間約 40%伸びた。今後も Arla Foods 社と RTD 分野で一緒に商売を伸ばしていきたい。」と述べている。

乳飲料は Arla Foods 社の成長戦略において重要な位置づけとなっており、Arla Foods 社の副社長は、「当社は 2020 年には北欧、中東、アジア、北アフリカにおいて乳飲料の主要な供給者となることを目指しております。Starbucks 社との新たな戦略的ライセンス契約はこの目標達成のために不可欠な要素となり将来の成功の鍵となる。」と述べている。

＜アムステルダム駐在 Lacto Europe B.V. 吉田＞

出典：
AGRA EUROPE 各誌
Daily Dairy Report
Dairy Industry Newsletter
農畜産業振興機構“畜産の情報”
AMS Dairy Market News
日刊酪農乳業速報
Rice Dairy
NZ Herald
Stuff.co.nz
食品産業網
Weeklytimes
USDEC Export Trade Data
Global Trade Information Service
USDA's Dairy Market News
Australian Financial Review
食品産業サイト
経済日報
東方ネット
長三角乳業

ディスクレーマー

1. 株式会社ラクト・ジャパン(以下「当社」といいます。)は、「乳製品情報」(以下「当資料」といいます。)に記載されている情報については相応の注意を払っておりますが、その内容の完全性、正確性、適切性等について、いかなる保証も行うものではありません。そのため、当資料に記載されている情報・資料を利用するなどの、利用者の行為に関連して生じたあらゆる損害等について、理由の如何に関わらず、一切責任を負いません。また、当記事に記載されている情報には、第三者が提供しているものが含まれていますが、当社は、その内容の正確性等については一切の責任を負いかねますので、予めご了承ください。
2. 当社は、事前に予告することなく、当記事の内容を変更等することがありますが、それに関連して生じたあらゆる損害等について、理由の如何に関わらず、一切責任を負いません。
3. 当社の許可なく当該情報の一部または全体を転載、二次使用すること、ならびに当該お客様以外に開示することは固くお断りいたします。